

1 日時

平成 26 年 3 月 25 日 (火) 19:00～20:30

2 会場

おおるり大会議室

3 出席者

委員：81人

島田市：染谷市長、渡辺副市長、濱田教育長、石間企画部長、三浦総務部長、中村市民福祉部長、牛尾スポーツ・経済部長、佐久間建設部長、金原教育部長、中野病院事務部長、桜井消防長、村田議会事務局長

事務局：大石企画調整課長、秋山企画調整係長、駐車場整備：駒形主査、岩本主査、小松主事

4 概要

1 開会

司会：戸塚リーダー

2 大石代表あいさつ

市長、副市長、教育長、各部長のご出席ありがとうございます。私は、百人会議に参加させていただき、多くの方のお話を伺い大変勉強になりました。今夜の会議も行政と市民が知恵を出し合う会議になることを願います。

3 提案に対する市からの回答（染谷市長）

みなさん、こんばんは。

1月10日に皆さんが提出してくださった提案書の全ての提案プロジェクトについて、全庁を挙げて内容の検討を行いましたので、本日はその検討結果について報告させていただきます。

残念ながら、全ての提案を実現することはできませんが、皆さんの提案内容は、島田市総合計画後期基本計画の巻末の資料編に要約したものを掲載し、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。

まず、私から20の提案に対する検討結果の概略をお伝えします。時間の都合で、その全てをお伝えすることができませんので、詳しくは、お手元の資料をご覧ください。

なお、検討結果についてご質問があれば、後ほど質疑応答の時間で、私か担当部長からお答えをさせていただきますので、よろしく願いいたします。

では、まず、第1分科会の公共交通についての御提案ですが、既存のコミュニティバス伊久身線及び相賀線と経路が重なることから、別に新たな路線を設けることは難しいと考えています。

今後、バスの交通体系全体を見直していきますが、主に公共交通としてのコミュニティバス運行確保の必要性の観点から、既存路線の運行を見直すとともに、空白地域への対応方法などを検討しています。御提案のあった区間については、どの程度の利用が見込まれるのか、バス路線を新しく

設けなければ対応できないのか、他に効率的で利便性の高い方法がないかなどを検討してまいります。

次に、情報、交流拠点についての御提案ですが、島田市をトリケラトプスになぞらえるなど、とてもおもしろい提案でした。提案を受けるまでもなく、市民生活の利便性や快適性を高めるため広域幹線道路等の総合的な道路ネットワークを構築していきたいと考えています。また、利便性の高い交通結節点としての強みを内外にPRし、観光交流人口の増加に繋げていきたいと考えています。そのために、効果的な道路整備を行うとともに、案内サインの設置やウォーキングマップ・交通アクセスマップの作成を検討していきます。また、島田駅、金谷駅、家山駅周辺の市街地エリアでのデータ通信環境の整備について調査研究してまいります。

次に、道路についての御提案ですが、従来は、都市化した地域における浸水対策として排水路整備を行ってきました。今後は周辺環境を考慮した水路整備についても取り組んでいきたいと考えております。なお、水路の復活は難しいと考えていますが、現存する昔ながらの水路の保存と計画的な排水路整備を検討していきます。

なお、山間部を通過する国道及び県道については、道路整備促進期成同盟会を通じて、国や県に整備を要望してまいります。

第2分科会の交通安全についての御提案ですが、私も市民一人ひとりが交通安全の意識を高めることが、先ず大切であると考えています。そして、家庭内の会話から家族にその意識が伝わり、次第に地域全体へ意識が広がり、市全体の交通安全につながると考えます。御提案いただいたステッカーの配布については、実施を検討します。また、歩行時・自転車利用時にマジックバンドを着用することで、個人の意識が高まり、車両に対しても交通安全を訴える効果があると考えますので、これについても併せて検討してまいります。

次に、地域防災力の強化についての御提案ですが、まず、食料と飲料水の備蓄は、家庭における重要な防災対策の一つですので、引き続き備蓄の啓発に努めていきます。また、実際に要援護者（平成26年4月からは「要配慮者」といいます）が防災訓練に参加することは大変意義があり、参加することによって避難に必要な人・物・配慮が具体的に分かるようになると考えています。したがって、引き続き地域で要援護者を支えていただけるよう会議等を通してお願いをしていきます。

また、防災委員が全員同時期に交代する自主防災組織へは、半数ずつ交代するなどの提案を伝えたいと考えております。

次に、防犯についての御提案です。地域力は防犯の大きな力になると考え、防犯まちづくりを引き続き進めていきます。平成23年に制定した「防犯まちづくり条例」の基本理念でも、このことを謳っています。そのために、講習会や広報事業を進め、住民同士の意識を高め、住民同士の連帯感を強めていきます。また、民生委員の皆さんが高齢者についての情報を得られる機会を増やしていきます。

さらに、自助・共助の気持ちを高めるため、地域防犯団体のパトロール活動に対して支援してまいります。

次に、第3分科会の観光に関する御提案ですが、島田市の観光振興を担う団体として観光協会が設置されていますので、この協会が中心になって新たな観光戦略プロジェクトを推進していくことを期待しています。

御提案のとおり、市内の魅力ある観光資源をまず市民の皆様を知ってもらい、その観光情報を市民の皆様と関係団体及び行政が共有することで、観光資源を点から面へと展開させ、これが全国に

向けての効果的なPRになるものと考えます。

市は、ニューツーリズムの推進、フィルムサポート団体の活動支援、ホームページ等による観光資源の情報発信などを行い、観光を通じた地域の活性化を目指してまいります。

次に、農林業についての御提案ですが、農業者と都市部に住む若者の交流による農業の活性化は有効な方法であると考えています。今後、体験や交流の要素を取り入れたニューツーリズムを推進し、交流人口の拡大を図ってまいります。

また、観光情報の発信については、普及が進んでいるソーシャルネットワーキングサービスなどを活用した効果的な方策を検討していきます。また、外国人に対しては、御提案いただいた英語表記だけでなく、多言語表記についても検討していきたいと考えています。

次は、第4分科会の医療についての御提案です。地域医療を守り支援する活動も市民の健康づくり活動も、医療関係者、市民、行政が共同作業で取り組むべきものと考えます。市民のみなさんを中心にして推進する本プロジェクトを、積極的に支援したいと考えます。市としても、勉強会や講演会を開催する折には、会場の幹旋や医療従事者等の講師派遣、あるいは検(健)診の受診勧奨、必要な健康・医療情報の提供など、できることから連携し、協働の意識をもって取り組んでいきたいと考えています。また、健康管理について、行政から情報提供や啓発を積極的に行うとともに、地域の場の力を活用した健康づくりを進めてまいりたいと考えています。

次に、次世代育成についての御提案ですが、現在、行っているファミリー・サポート・センターの充実こそが、プロジェクトの提案にある事業効果を生むものと考えています。さらに、会員同士や市民が自ら子育てを支援しあう団体や組織を作っていくことが望ましいと思われまますので、その活動をサポートしていきたいと考えています。

また、育児サポーターの派遣や来年度から行う子育てコンシェルジュの設置などにより、きめ細やかな子育て支援を行ってまいります。

次に、福祉についての御提案です。ウォーキングなどの適度な運動は生活習慣病の予防やこころの健康にもつながることから、身体活動量の増加に向けた啓発活動に取り組むとともに、健康づくりのための地域活動を支援していきます。また、歩け歩けコースの設定やウォーキングロードの整備などは、楽しみながら運動を継続することにつながり、仲間づくりや健康づくりに結びつくものと考えますので、今後検討してまいります。

次に、第5分科会のごみ・資源についての御提案ですが、ごみの分別と再資源化は市民のご協力により、高い水準で実施できていると考えています。

現在、生ごみは可燃ごみに分類されていますので、水切り等のご協力をお願いするとともに、生ごみ処理容器の普及活動に努めていますが、分別収集については、集積所や収集方法の課題があることから実施については考えておりません。平成26年度には、生ゴミをバクテリアにより消滅させる処理方法を市民モニターに実施してもらい、データ分析を行います。

また、平成26年度からは、古い衣服などの拠点回収を試験的に実施することにより、燃えるごみの減量と資源の有効活用を図ってまいります。

次にエネルギーについての御提案ですが、地域にある自然エネルギーの活用は大変重要と考えていますので、市としては住宅用太陽光発電システム設置の補助を継続して行うとともに、小水力発電の導入についても関係機関とともに検討していきます。さらに、遊休地や公共施設の屋根を活用した太陽光発電システムの導入を進めていきますが、現時点では、観光資源としての活用は難しいと考えています。また、エネルギーの地産地消、災害時の電力確保の観点から、蓄電システムの構

案を進める必要があると考えています。

また、御提案にあるように、自然エネルギー推進のための市民やNPO等の活動を支援してまいります。

次に、環境教育についての御提案ですが、プロジェクトの事業内容や目的が広範囲であり、その全てにおいて協働で取り組むことは難しいと思われます。そこで、しまだエコプラットフォームから特定の取組について提言を受けるたうえでの参加とさせていただき、提案内容は、第2次環境基本計画の取組に反映させていきたいと考えています。様々な形態の環境教育の場や新しいWebツールによる情報発信については、有効な手段であると考えています。さらに、交流する場としての拠点づくりなどを通じて団体間のつながりが広がれば、環境活動の底上げにつながると考えます。

次に、教育に関する御提案ですが、「高齢者の智恵(心)と経験を教育に活かす」活動については、既に各小中学校が、学校の実態に即して独自の方法で実施しております。また職業体験についても、市内全中学校で2年生を対象に、地域の企業や生産者、公共機関等の協力を得て、3日間の体験学習を実施しています。

この度の御提案については、大きな教育効果が期待できるものとして受け止めておりますが、新学習指導要領の実施により、学校の授業時数も増加している中で、先ほど申し上げた内容に加え、全校一律の同種事業の実施は、困難であると考えています。御提案の趣旨を学校教育に効果的に生かすためにも、各学校が、現状を踏まえて、実施することが大切であると思っておりますので、各学校の主体性を尊重し、現在の活動を今後も継続的に支援していく考えです。

次に、芸術・文化についての御提案ですが、「島田を世界に!!課」については、アイデアとしては参考とさせていただきますが、島田市の魅力を発信するため、島田市の現状や島田市に対するニーズ等を把握するマーケティングリサーチが欠かせないと考えています。そのための専属部署、例えば、「シティプロモーション課」などの必要性は今後、ますます高まるものと考えています。

市民会館に代わる国際交流ができる複合施設については、市が単独で整備することは財政状況をはじめ、優先順位の面などから難しいと考えています。

なお、市民会館については、耐震診断結果を踏まえ、総合的な公共施設のあり方を検討する中で、芸術・文化活動の拠点施設としての位置付けや近隣自治体との広域的共同利用などを検討してまいります。

次は、生涯学習についての御提案です。プロジェクトにおける実施主体が市民であることから、市民の意欲や自主性を尊重し、団体間のネットワークづくりなどのサポートに努めていきます。行政としては、社会教育施設等の学ぶ場の提供や発表・集いへの支援、団体間を結ぶ支援などを行っていききたいと考えています。

既に、「マナビィまつり」「フェスタしまだ」「金谷宿大学」などでは、多くの市民による発表が行われています。自主文化事業として、鑑賞型イベントを中心に、市民参加型のワークショップや地域への文化活動出張サービスなどのイベントを積極的に取り入れています。

次に、第7分科会の行財政改革についての御提案ですが、今後、組織横断的に取り組む必要があるプロジェクトについては、御提案の内容を踏まえたプロジェクトチームの立ち上げが必要であると考えています。また、若手職員の発想や行動力を活かせる場をつくることによって、職員の育成にもつながると考えています。

既に、平成26年度の人事異動において、市の主要課職員の公募制を導入しましたし、新東名島田金谷インターチェンジ周辺等開発プロジェクトでは、関係課の職員でプロジェクトチームを立ち

上げ、周辺地域のまちづくりについて作業を行っています。

今後、御提案の内容について、職員、特に若手職員の人材育成も含め、実施を検討してまいりたいと考えております。

次に、公共施設についての御提案ですが、島田市は子育て支援に力を入れていきたいと考えていることもあり、「すべての子どもが利用できる交流の場」の存在は重要だと考えています。

しかし、新たな施設を設置することは、財政状況や優先順位の面などから難しいと思われるため、既存の施設で対応していきたいと考えています。こども館をはじめとする既存施設が、更に誰もが利用しやすい充実した施設となるよう、利用者アンケートなどを行い、御提案の内容に近づけるようにしていきたいと考えています。

最後の市民参加・協働についての御提案ですが、市政運営に若者の意見をどのように吸い上げ、反映させるかが課題となっていますので、御提案の青年を対象とした「議会」の開催が可能であるかを検討していきます。

また、市政に関する情報を積極的に提供し、幅広い世代からの意見、提案を聞く機会や直接話し合う機会を設けることで、まちづくりへの参加意識、機運を盛り上げていきたいと考えています。

また、この御提案は、総合計画後期基本計画の中に一部反映させていただきました。

続いて、島田市総合計画後期基本計画のキャッチコピーですが、皆さまからの御提案を島田市総合計画審議会に諮り、選定していただきました。その結果、島田市総合計画後期基本計画の愛称「しまだみらい創造プラン2014-2017」キャッチコピー「みんなでひらく・しまだの明日」に決定しました。

以上、提案書の検討結果について、報告をさせていただきました。

4 質疑応答

Q 1：地域防災における要援護者の支援においては、地域における助け合いが重要だと思うが、最終的には行政として要援護者のリストを作ることが一番大事だと考える。名簿の作成は進んでいるのか。

A 1：資料が手元に無いので正確な数字は分からないが、島田市の要援護者は 11,000 人くらいで、そのうちの 70%が台帳に登録されている。藤枝市、焼津市が 40%くらいで島田市が数字の上では近隣の中で一番進んでいる。

Q 2：22 頁の古布の回収であるが、先日行政と市民の方と富士市に視察に行ってきた。富士市は、これまでの方法を改善して第 2 ステージに進んでいる。島田市がこれからやろうとする方法は、富士市が足りなかったとした第 1 ステージの内容である。1 つは、拠点の少なさである。そして、指定の袋であり、富士市は何でもよいことにして、回収量が増えた。

生ゴミ処理容器の普及については、市民団体が一生懸命取り組んでいるが苦勞している。こうした活動の支援をお願いしたい。「再資源化は高い水準で」と書いてあるが、先進地と比較してほしい。先進地は、ゴミをお金に換えている。先進地では、ゴミの全量とお金に換えた金額を公表しているので、こうしたものと比較してほしい。ゴミの 60%は生ゴミなので、分別の研究くらいは必要なのではないか。

A 2：本日担当部長が欠席しており、詳しく説明できず申し訳ない。回収の場所は、試行ということのなかで、まずは試しにやってみようというものである。活動している団体を支援し、一緒にやっていきたいと考えている。ゴミの全量と換金については、私には詳しいことが分

からないので、後日回答したい。ゴミの分別については、現在の溶融炉がすべて燃やすという方法を取っていることから、この方式を大きく変えるということは難しいと考える。回収して、資源化できるものを行っていく。

後日回答の部分です

A 2 : ごみの全量・換金については、人口が当市と類似している先進地と比較し取り組み事例を研究しながら、ごみ減量化、減容化、資源化を推進していきます。

当市の状況は、平成 24 年度実績において、ごみの搬入量が 30,340 t、換金額が、古紙 9,433,815 円、びん 688,954 円、紙パック 412,155 円、ペットボトル・白色トレイ 9,134,144 円、ペットボトルキャップ 60,460 円、食用油 94,850 円、鉄屑 3,958,901 円、スラグ・メタル・堆肥 772,917 円で、合計 24,556,196 円となっております。

Q 3 : 小水力発電において、関係機関との調整が重要である。静岡県農業水利施設を活用した小水力等利用推進協議会に島田市も加盟しているが、前回の重要な会議に欠席していたので注意してほしい。また、NPO 等の支援をしていただくために、予算を獲得することが大切だと考える。そのために市の担当を決めてほしい。

A 3 : 会議の欠席については申し訳ない。県等は、農業水利権を持っているところを中心に事業を進めている。市は水利権を持っていないので、そういった会議に出席し、情報収集に努めたい。

Q 4 : 古布の回収について、島田市の取り組みが遅いと感じている。回収した古布は、アジア・アフリカにただ送るのか、業者に買い取ってもらい市の収入にするのか。

A 4 : 島田市は業者に売ることを考えている。実施までに時間が掛かったのは、他市の事例を研究していたからである。

Q 5 : 公共交通の市営コミュニティバスについて、知人の電動車椅子に乗っている人は、バス停がせまくて乗り降りができないため、広いバス停までわざわざ移動している。そういった事情をどの程度把握してバス停を作っているのか。こうしたことは、トイレや駐車場にもつながるので、しっかり検討してほしい。

A 5 : バス停の問題は、コミュニティバスだけでなく、民間のバスにおいても、ある程度の間隔でバス停を設置していると思われる。障害のある方が乗り降りできる広さがあることを今後しっかり考慮していきたい。

Q 6 : 超高齢化社会の対策は何か考えているか。

A 6 : 全国的な方向であるが、介護において地域包括支援センターというものがあるが、国では医療を在宅の面からサポートするために、このセンターを介護と医療の双方に使っていくという政策を考えている。将来的には、地域包括支援センターが地域と医療と介護をつなぐステーションになっていくと思われる。

20 年以上経つと、全国的に人口が激減していくと考えられる。地域医療の激変に合わせて、国、県、市もしっかり考えていきたい。

Q 7 : 荒廃茶園にソーラーシステムを設置することを考え、昨日の農業委員会に提出したが、勉強させてもらいたいとして保留された。昨年 7 月に知事が農振地域（青字）に設置してもよいと認めており、それを元に提出した。市としての荒廃茶園の有効利用をどのように考えているのか。

A 7 : 耕作放棄地にソーラーシステムを設置することについては、具体的な案件としてはお答え

できないが、荒廃茶園の中でも青字かどうかで違ってくると思われる。全国的な情報としては類似事例を把握している。システムを設置する土台の部分は転用が必要となり、空間部分については従前の農地として使っていただくということが基本的な考えのようである。また、景観上、反射するようなパネルを設置することが適当か地域の方の合意形成の問題があるようである。担当も新しい事例であり、勉強させてもらいたいと言ったと思われる。

Q 8 : 30 頁に「実施を検討する」とあるが、誰がいつまでにどういうことを検討するのか教えてほしい。また、市の主要課職員の公募制について詳しく教えてほしい。

A 8 : これまでも人事交流等のさまざまな人材育成を行ってきたが、新たな研修も検討していきたいと考えている。市の主要課職員の公募については、子育て支援や企画部門について公募を行った。相当数の応募を期待していたが、手を挙げたのは数名であった。また、現在、シティプロモーションについて、観光プロモーションではなく住みやすい街にしていくために、平成 26 年度に検討し、平成 27 年に施策に反映させていくため、人事異動の内示が出た日から 3 月 31 日までプロモーションに参加する職員を公募している。これは、市長直属で進めていく考えである。主要課職員の公募では数名しか手が挙がらなかったが、あきらめず職員のやる気や意欲を引き出すために何度も呼びかける場を持っていきたい。

Q 9 : UPZ 圏内にある島田市では、今後原子力防災について進めていくのか。また、市民の放射能についての講座等をどのように考えているのか。

A 9 : 2 月議会において、浜岡原発の再稼働は認められないとはっきりお話した。現実の課題として、島田市民の命を守る術が無いためである。また、安全対策が確立されていない中でなしくずし的に進めていいのかという強い思いでそうした。防災マニュアルについても、これまでのマニュアル（一般、風水害等）に追加して原子力対策編を作成した。

また、今月末に UPZ 圏内の 11 の市町、すでに安全協定を結んでいる掛川、菊川、牧之原、御前崎以外の 7 市町の首長も揃って申し入れをする予定である。

5 分科会リーダーの紹介（大池副代表）

新たに設置された分科会の名称と選出された各分科会のリーダーを紹介した。（）はテーマ。

- ・観光分科会（観光）：川井大輔リーダー
- ・産活分科会（産業）：戸塚康之リーダー
- ・楽しい La・防災しまだ分科会（防災）：杵塚衛リーダー
- ・福祉・医療分科会（〃）：松本宜士リーダー
- ・教育・子育て支援、文化分科会（〃）：渡辺富士雄リーダー
- ・エコまち未来プロジェクト（環境・自然エネルギー）：白石啓美リーダー
- ・風穴分科会（行財政改革・市民参画）：森克広リーダー

6 その他

(1) 所属分科会の変更等について（森リーダー）

別添の資料に沿って説明した。

(2) ファシリテーションを活用した楽しい協働のまちづくり研修について（大石課長）

別添の資料に沿って説明した。

(3) 質疑応答（会場から質問が挙がったため）

Q：以前の全体会において、市長は百人会議に参加する職員を募集すると言っていたが、その後の状況になっているのか教えてほしい。

A：分科会が確定したので、3月下旬から職員を募集する。職員の参加を望まない分科会もあるので、分科会の希望を確認して募集する。

(4) 市長のあいさつ

今日は皆さまに私からお返事をさせていただく機会をいただきありがとうございます。来年の秋には、場所は変わるかもしれないがおおりのようなところで、1年半に渡るその成果を発表していただき、市民の皆さまに聞いていただく機会を持ちたい。皆さんの提案を心から楽しみにしている。しかし、この百人会議はその提案だけが目的ではない。この会議を通じて、人が有機的につながり、今までに無い発想が生まれたり、いろいろな経験を持つ人に若い人を育てていただく、そうしたことも大きな意味のあることと考えている。職員についても10年先の島田市を考えて若手の登用を行った。ぜひ皆さま方にも若い人を育てるという気持ちを持って、1年半の期間で様々につながっていただきたい。

最初のころ、この百人会議はエネルギーが渦巻いて、ぶつかりあっているように感じたが、そのエネルギーに方向性が出てきた。今日の会議は、すべて皆さんで進行していただき、質問の中身も非常に前向きで、すばらしく、的確であったので、大変うれしかった。今後も、こうして皆さんに私が感じていることもお伝えしていきたい。私自身、この百人会議は絶対に失敗できないと考えているので、今後ともぜひ皆さんのご支援をお願いしたい。

7 閉会